

Japanese man In NY (ニューヨーク生活)



Photo provided by Hide Iwakiri

《 R.I.P. Jim 》

ニューヨークでウェイターをしていた頃、毎日のように店に顔を出してくれる常連さんがたくさんいた。かれこれ四半世紀が過ぎようとしているが、当時当たり前だった光景は今でもつい昨日のように感じられる。

思い出深い常連さんがたくさんいたが、窓際の A1 と呼んでいた 2 人用のテーブルが特等席で、ディナータイムが始まってから間もない時間帯に週 3~4 日は必ず店に来てくれていたバリーさん（ジャズ・ピアニストのバリー・ハリス）。バーで日本酒を飲み頻りに足を運んでくれていたのは、現在日本を拠点に活躍している MJQ、MJO のリーダーでもあるデヴィッド・マッシュューズさん。店がミュージカルの劇場街にあったため、有名な俳優さんたちもよく来ていた。

当時は店の後方の B セクションと呼ばれたエリアは喫煙席だったが、今でもよく覚えているのはウェイター & ウェイトレス仲間の間で“亀仙人”と呼んでいた白人の老人。文字通り、漫画『ドラゴンボール』の“亀仙人”にそっくりだったためそう名付けていたのだが、パイプを吸っていたので、“亀仙人”が来るとパイプの煙が B セクションに漂って独特の匂いを放っていた。そして、毎回決まって注文するは「カキ酢」という生カキにポン酢を垂らしてレモンを添えたサイドメニューだった。歳のせいか耳が遠かったのだが、テーブルに座るや否やパイプ片手に「ka-ki-su!」と大きめの声で注文する“亀仙人”の佇まいは今でも鮮明に覚えている。当時おそらく 70 歳は超えていたと思うが、“亀仙人”なら 100 歳近くになるであろう現在も健在かもしれない。

“亀仙人”以外にも名前を聞くことはなかったが、いつも同じテーブルに座り、同じメニューを頼む人もたくさんいたし、愛想が良い人もいれば、無愛想な人もいたり人種や年齢も千差万別だった。

そしてつい最近、思い出深い常連客の訃報を Facebook で知った。Jim という常連さんでミュージシャン、ジャズ・トランペッターだった。店の近所にあったスタジオで仕事を終えたデヴィッド・マッシュューズさんとよく一緒に顔を出してくれていた。Jim も日本酒が好きで、白い徳利とお猪口を手に入懐っこい笑顔とほろ酔い加減の赤ら顔でバーの辺りで楽しそうに佇んでいた姿が懐かしい。

Jim には今でも感謝していることがある。自分もジャズ、音楽を志していたことを聞いてくれた Jim がある日、「レコーディングがあるからスタジオに来ないか？」と声を掛けてくれた。デヴィッド・マッシュューズさんがプロデューサーとしてレコーディングをしていた現場だったが、本場ニューヨークのスタジオとあって、レコーディングの時の独特の緊張感やスタッフの人たちの真剣な顔つきに自分も少し緊張したのを覚えている。Jim はスタジオ内を案内してくれ、レコーディングに参加していたミュージシャンやスタッフにわざわざ自分のことを紹介してくれたり、いたく感激した。

レストランではウェイターとしてテーブル席担当だったため、バーの常連さんとは挨拶程度の会話がほとんどで、実際に Jim と個人的にお互いのことを深く話すことはなかったが、Jim の温和で優しい笑顔は店のスタッフにも何ともいえない癒しを与えてくれた。Jim とはデヴィッド・マッシュューズさんの来日公演の時にも日本で会うことができたが、10 年近く前のことで、最後に会ったのはその時だった。Jim がこの世を去ったことは悲しい限りだが、ミュージシャンとしての尊敬の念、そして、感謝の気持ちと共に、異国の地、ニューヨークという大都市に散在する無数のレストランの中のたった一軒の店で出会えたことに特別な縁を感じている。

Jim が息を引き取ったのは 2018 年 7 月 10 日 22 時 29 分とのこと。享年 86 歳。どうぞ安らかに。Thank you, Jim!